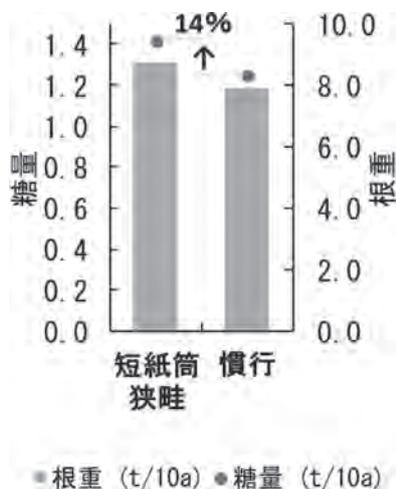


(2) 新技術のメリット

- ・短紙筒狭畦栽培は慣行栽培に比べて14%多収です。(直播栽培は狭畦密植により7%多収)
- ・単位面積当たりの生産コストは概ね同等です。(収穫機を120ha/1年以上使い、移植機を1台使った場合の作業料金で試算した場合)



	単位	移植栽培		直播栽培	
		従来	新技術	従来	新技術
種苗費		2,181	2,879	3,435	4,534
肥料費		19,618	19,572	19,146	19,146
その他の諸材料費		8,536	9,210	0	0
賃借料及び料金	円/10a	0	25,700	0	15,700
車庫・自動車・農機具費		37,048	13,939	27,128	12,253
上記以外の費用		17,872	17,872	16,523	16,523
労働費		17,344	12,937	5,421	3,230
10a当たり合計	円/10a	102,599	102,110	71,653	71,386
10a収量	kg/10a	6,000	6,840	5,100	5,457
1kg当たり	円/kg	17.10	14.93	14.05	13.08

3. 作業上の留意点等

- (1) 育苗期間は6週間を目安に：7週以上の育苗は減収することがあります。
- (2) 収穫機は120ha/1年以上使う：移植機は60ha/1台が上限。残りは直播栽培で対応しましょう。
- (3) 収穫の障害物は取り除く：防風林の枝の張り出しなどは事前に除去しましょう。
- (4) 6月下旬までは適切な雑草防除が必要
- (5) 収穫ロスは曲線部で増える：定植・播種時からなるべく直線の作業を心がけましょう。
- (6) 土壌病害対策が必要：シストセンチュウ汚染圃場の作業は行わないでください。移動前のクリーニングなどの対策を実施しましょう
- (7) 定植作業と収穫作業は余裕をもって行う：生産者間および糖業との事前の協議が必要です。収穫機の踏圧は従来のトラクタと大きく変わりませんが、湿潤時の作業は避け、終了後は速やかに深さ30cm以上の耕起を行ってください。
- (8) 短紙筒狭畦移植栽培用の移植機は2020年4月以降受注を開始し、2021年春作業には使用が可能です。

(成績名：短紙筒狭畦移植栽培機と自走式多畦収穫機等を用いたてんさいの狭畦栽培)

本研究は生研支援センター「革新的技術開発・緊急展開事業（うち経営体強化プロジェクト）」の支援を受けて実施したものです。

もう少し詳しい情報はこちら

検索は、「農業技術情報広場、一般課題R1」で



本技術内容についての問い合わせ先
 農研機構北海道農業研究センター
 地域戦略部研究推進室広報チーム
 電話 (011) 857-9260
 E-mail : cryoforum@ml.affrc.go.jp